

# 四半期報告書

(第49期第2四半期)

自 2023年12月1日

至 2024年2月29日

株式会社 ヒマラヤ

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 ..... 1
- 2 事業の内容 ..... 1

### 第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク ..... 2
- 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 ..... 2
- 3 経営上の重要な契約等 ..... 3

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 ..... 4
- (2) 新株予約権等の状況 ..... 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 ..... 4
- (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 ..... 4
- (5) 大株主の状況 ..... 5
- (6) 議決権の状況 ..... 5

#### 2 役員の状況 ..... 6

### 第4 経理の状況 ..... 7

#### 1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 ..... 8
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
四半期連結損益計算書 ..... 10  
四半期連結包括利益計算書 ..... 11
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 ..... 12

#### 2 その他 ..... 18

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 ..... 19

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2024年4月12日
【四半期会計期間】	第49期第2四半期（自 2023年12月1日 至 2024年2月29日）
【会社名】	株式会社ヒマラヤ
【英訳名】	HIMARAYA Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼CEO 小田 学
【本店の所在の場所】	岐阜県岐阜市江添一丁目1番1号
【電話番号】	058（271）6622（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼CFO 三井 宣明
【最寄りの連絡場所】	岐阜県岐阜市江添一丁目1番1号
【電話番号】	058（271）6622（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼CFO 三井 宣明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第48期 第2四半期 連結累計期間	第49期 第2四半期 連結累計期間	第48期
会計期間		自2022年 9月1日 至2023年 2月28日	自2023年 9月1日 至2024年 2月29日	自2022年 9月1日 至2023年 8月31日
売上高	(百万円)	29,413	28,059	60,189
経常利益	(百万円)	1,080	11	1,125
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	(百万円)	831	98	589
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	834	138	726
純資産額	(百万円)	16,845	16,553	16,590
総資産額	(百万円)	37,363	36,654	35,540
1株当たり四半期（当期）純利益	(円)	67.74	8.03	47.99
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	45.1	45.2	46.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,162	△311	△42
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△956	△259	△2,196
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△1,608	580	△3,040
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	(百万円)	8,274	4,406	4,396

回次		第48期 第2四半期 連結会計期間	第49期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自2022年 12月1日 至2023年 2月28日	自2023年 12月1日 至2024年 2月29日
1株当たり四半期純利益	(円)	43.35	3.76

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当第2四半期連結累計期間から表示方法の変更を行っており、前第2四半期連結累計期間および前連結会計年度の主要な経営指標等について、変更の内容を反映した組替後の数値を記載しております。なお、表示方法の変更の内容については、「4. 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項」の「（表示方法の変更）」をご覧ください。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（2023年9月1日～2024年2月29日）における我が国の経済は、不安定な海外情勢の継続、急速な円安の進行や世界的な資源価格の高騰を背景とした物価上昇など、景気の下振れリスクは懸念されるものの、雇用や所得環境の改善による回復が期待されております。

当社グループが属しておりますスポーツ用品販売業界におきましては、社会活動の正常化に伴い、スポーツ活動も活発な動きが見られるものの、仕入コストや物流費等の各種コストの増加や、人手不足による人件費の高騰に加え、物価の上昇による節約志向の高まりにより価格重視の消費傾向が継続しております。また、天候についても、記録的な暖冬により、秋冬物衣料を中心としたアパレルやスキー・スノーボード用品の需要が抑制されたことにより、厳しい経営環境となりました。

このような状況のもと、当社グループでは、当連結会計年度を初年度とする新中期経営計画（2024年8月期～2026年8月期）の重点戦略に基づき、3店舗の新規出店、店舗運営におけるデジタル化の推進など、中長期的な視点に立ったリアル店舗の販売基盤の強化に向けて取り組んでまいりました。EC事業領域においては、EC専売品の拡充及び新規カテゴリーの開拓、新EC専用物流センターの稼働率向上など、規模の拡大と収益性の向上に向けた取り組みを継続して実行しております。また、新事業領域の開発に向けて、インバウンド向けの新业态店舗の出店や、海外での自社PB商品の販売、米国子会社での市場調査活動の開始などにも取り組んでまいりました。

商品別の売上動向としては、一般スポーツ用品は、部活動をはじめとする様々なスポーツ活動の正常化による市場回復が進んだこと、アウトドアアパレル需要が引き続き高い水準を維持していることなどにより、それぞれ好調に推移いたしました。一方で、前述の暖冬の影響によるほか、キャンプ用品及びゴルフ用品についてはコロナ禍の需要も一巡し、低調な市場環境が継続しております。結果、当第2四半期連結累計売上高は前期を下回る水準で推移いたしました。

利益面につきましても、季節的に売上構成比が高まる秋冬物衣料の市場全体における過剰在庫の解消に向けた動きや、スキー・スノーボード用品の値下げなどにより、売上総利益率が低下いたしました。

販売費及び一般管理費については、経費の削減活動に努めながらも、成長に向けた投資活動についても継続したほか、物価や人件費などのコスト上昇の影響が顕在化したことにより、前期よりも増加する結果となりました。

出退店の状況については3店舗を出店、2店舗を退店いたしました。2024年2月末時点で当社グループの店舗数は全国で98店舗、売場面積は213,041㎡であり、前年同期比で店舗数は3店舗増、売場面積は5,207㎡増となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における連結業績は売上高28,059百万円（前年同期比4.6%減）、営業損失42百万円（前年同期は1,027百万円の営業利益）、経常利益11百万円（前年同期比99.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益98百万円（前年同期比88.1%減）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

##### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は23,967百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,118百万円増加いたしました。これは主に商品が1,043百万円増加したことによるものであります。固定資産は12,686百万円となり、前連結会計年度末に比べ5百万円減少いたしました。これは主に建物及び構築物が75百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は36,654百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,113百万円増加いたしました。

##### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は17,116百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,527百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が増加したことによるものであります。固定負債は2,984百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,377百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は20,101百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,150百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は16,553百万円となり、前連結会計年度末に比べ37百万円減少いたしました。これは主に利益剰余金が108百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は45.2%（前連結会計年度末は46.7%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」とする）の残高は、前連結会計年度末に比べ9百万円増加し、4,406百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の減少は311百万円（前年同期は1,162百万円の増加）となりました。これは主に棚卸資産の増加1,031百万円により資金が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は259百万円（前年同期は956百万円の減少）となりました。これは主に保険積立金の解約による収入185百万円により資金が増加した一方、有形固定資産の取得による支出336百万円により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は580百万円（前年同期は1,608百万円の減少）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出1,259百万円により資金が減少した一方、短期借入金の借入による収入2,000百万円により資金が増加したことによるものであります。

(4) 優先的に対処すべき事業上および財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上および財務上の課題について重要な変更ならびに新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (2024年2月29日)	提出日現在発行数(株) (2024年4月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,320,787	12,320,787	東京証券取引所 スタンダード市場 名古屋証券取引所 プレミアム市場	単元株式数 100株
計	12,320,787	12,320,787	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年12月1日～ 2024年2月29日	—	12,320,787	—	2,544	—	3,998

## (5) 【大株主の状況】

2024年2月29日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社コモリホールディングス	岐阜県岐阜市福光西2丁目11-11	4,107	33.34
株式会社大垣共立銀行 (常任代理人 株式会社日本カ ストディ銀行)	岐阜県大垣市郭町3丁目98 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	525	4.26
株式会社十六銀行	岐阜県岐阜市神田町8丁目26番地	504	4.09
小森裕作	岐阜県岐阜市	365	2.96
株式会社電算システム	岐阜県岐阜市日置江1丁目58	301	2.45
ヒマラヤ従業員持株会	岐阜県岐阜市江添1丁目1-1	267	2.17
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	東京都港区赤坂1丁目8番1号赤坂インタ ーシティAIR	249	2.02
小森温子	岐阜県岐阜市	237	1.92
小森一輝	岐阜県岐阜市	179	1.45
株式会社トーカイ	岐阜県岐阜市若宮町9丁目16	150	1.21
計	—	6,886	55.90

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は84千株です。

## (6) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

2024年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,300	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,309,200	123,092	—
単元未満株式	普通株式 9,287	—	—
発行済株式総数	12,320,787	—	—
総株主の議決権	—	123,092	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式400株および自己株式の失念株式1,000株が含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個および自己株式の失念株式に係る議決権の数10個が含まれております。



②【自己株式等】

2024年2月29日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（％）
株式会社ヒマラヤ	岐阜県岐阜市江添 一丁目1番1号	2,300	—	2,300	0.01
計	—	2,300	—	2,300	0.01

（注）上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に保有していない株式が1,000株（議決権10個）あります。なお、当該株式数は上記①「発行済株式」の「完全議決権株式（その他）」に含めております。

2【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の様動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年12月1日から2024年2月29日まで）および第2四半期連結累計期間（2023年9月1日から2024年2月29日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,396	4,406
売掛金	1,736	1,725
商品	15,767	16,810
貯蔵品	25	13
その他	923	1,011
流動資産合計	22,849	23,967
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,716	4,641
土地	1,388	1,461
リース資産	4	6
建設仮勘定	19	1
その他（純額）	764	756
有形固定資産合計	6,893	6,867
無形固定資産		
ソフトウェア	444	440
その他	47	35
無形固定資産合計	492	475
投資その他の資産		
投資有価証券	1,121	1,201
長期貸付金	389	361
差入保証金	3,021	2,998
繰延税金資産	116	207
退職給付に係る資産	481	489
その他	188	98
貸倒引当金	△13	△13
投資その他の資産合計	5,305	5,343
固定資産合計	12,691	12,686
資産合計	35,540	36,654

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,036	10,713
短期借入金	—	2,000
1年内返済予定の長期借入金	2,511	2,396
リース債務	1	1
未払法人税等	125	114
契約負債	154	274
賞与引当金	340	287
店舗閉鎖損失引当金	8	8
その他の引当金	52	38
資産除去債務	4	4
その他	1,354	1,278
流動負債合計	14,588	17,116
固定負債		
長期借入金	3,022	1,878
リース債務	3	6
資産除去債務	931	928
その他	403	171
固定負債合計	4,361	2,984
負債合計	18,950	20,101
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,544	2,544
資本剰余金	3,998	3,998
利益剰余金	9,847	9,739
自己株式	△34	△2
株主資本合計	16,356	16,279
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	71
繰延ヘッジ損益	—	1
退職給付に係る調整累計額	232	200
その他の包括利益累計額合計	234	273
純資産合計	16,590	16,553
負債純資産合計	35,540	36,654

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
売上高	29,413	28,059
売上原価	18,650	18,242
売上総利益	10,763	9,817
販売費及び一般管理費	※ 9,735	※ 9,859
営業利益又は営業損失 (△)	1,027	△42
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	18	15
仕入割引	4	3
受取賃貸料	64	63
協賛金収入	18	17
助成金収入	3	1
その他	20	31
営業外収益合計	131	136
営業外費用		
支払利息	10	7
不動産賃貸費用	62	62
その他	6	12
営業外費用合計	79	82
経常利益	1,080	11
特別利益		
投資有価証券売却益	174	—
保険解約返戻金	—	121
特別利益合計	174	121
特別損失		
減損損失	12	34
店舗閉鎖損失	—	44
店舗閉鎖損失引当金繰入額	14	—
投資有価証券売却損	33	—
投資有価証券評価損	1	—
保険解約損	8	—
特別損失合計	69	79
税金等調整前四半期純利益	1,185	53
法人税、住民税及び事業税	338	42
法人税等調整額	15	△87
法人税等合計	354	△45
四半期純利益	831	98
親会社株主に帰属する四半期純利益	831	98

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
四半期純利益	831	98
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	41	70
繰延ヘッジ損益	△3	1
退職給付に係る調整額	△34	△31
その他の包括利益合計	3	39
四半期包括利益	834	138
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	834	138
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,185	53
減価償却費	312	414
減損損失	12	34
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△72	△52
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△15	—
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△8	△14
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△38	△53
受取利息及び受取配当金	△21	△18
支払利息	10	7
投資有価証券売却損益 (△は益)	△141	—
保険解約返戻金	—	△121
売上債権の増減額 (△は増加)	123	10
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△109	△1,031
仕入債務の増減額 (△は減少)	331	676
未払消費税等の増減額 (△は減少)	107	104
その他	△252	△283
小計	1,424	△272
利息及び配当金の受取額	18	15
利息の支払額	△9	△7
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△270	△46
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,162	△311
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,244	△336
投資有価証券の取得による支出	△10	—
投資有価証券の売却による収入	324	—
保険積立金の解約による収入	19	185
敷金及び保証金の差入による支出	△64	△18
敷金及び保証金の回収による収入	103	37
その他	△82	△127
投資活動によるキャッシュ・フロー	△956	△259
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	2,000
長期借入金の返済による支出	△1,424	△1,259
配当金の支払額	△183	△159
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,608	580
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,402	9
現金及び現金同等物の期首残高	9,676	4,396
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 8,274	※ 4,406

**【注記事項】**

(追加情報)

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書)

前第2四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めていたスポーツ・アウトドア施設運営業務の収入は、当第2四半期連結累計期間より、運営業務に関する体制整備が完了し、当社グループの収益事業として位置付けることとしたため、本来の表示科目である「売上高」に含めて表示する方法に変更いたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の連結損益計算書も同様の組替えを行っております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた6百万円は、「売上高」として組替えております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
その他の引当金繰入額	26百万円	11百万円
給料手当	2,993	3,079
賞与引当金繰入額	337	287
退職給付費用	28	15
賃借料	2,295	2,409

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
現金及び預金勘定	8,274百万円	4,406百万円
現金及び現金同等物	8,274	4,406



(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年9月1日至2023年2月28日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月29日 定時株主総会	普通株式	183	15.00	2022年8月31日	2022年11月30日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には東京証券取引所プライム市場移行記念配当2.00円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年4月14日 取締役会	普通株式	159	13.00	2023年2月28日	2023年5月15日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自2023年9月1日至2024年2月29日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年9月29日 取締役会	普通株式	159	13.00	2023年8月31日	2023年11月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年4月12日 取締役会	普通株式	160	13.00	2024年2月29日	2024年5月15日	利益剰余金

(セグメント情報等)

**【セグメント情報】**

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

当社グループは、一般小売事業以外の重要なセグメントはありませんので、セグメント情報の記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

当社グループは、一般小売事業以外の重要なセグメントはありませんので、セグメント情報の記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当四半期連結会計期間末における当社のデリバティブ取引には、ヘッジ会計を適用しているため、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

商品区分別に分解した売上高は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間（自 2022年9月1日 至 2023年2月28日）

商品区分	金額（百万円）
スキー・スノーボード	2,905
ゴルフ	5,108
アウトドア	5,101
一般スポーツ	16,181
その他	116
顧客との契約から生じる収益	29,413
外部顧客への売上高	29,413

(注) 1. 「その他」は、フルフィルメント事業の収入等を含んでおります。

2. 連結グループ会社間の内部取引控除額後の金額を表示しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年9月1日 至 2024年2月29日）

商品区分	金額（百万円）
スキー・スノーボード	2,369
ゴルフ	4,981
アウトドア	4,178
一般スポーツ	16,400
その他	129
顧客との契約から生じる収益	28,059
外部顧客への売上高	28,059

(注) 1. 「その他」は、フルフィルメント事業の収入等を含んでおります。

2. 連結グループ会社間の内部取引控除額後の金額を表示しております。

3. 「注記事項（表示方法の変更）」に記載のとおり、当第2四半期連結累計期間よりスポーツ・アウトドア施設運營業務の収入について、営業外収益に表示する方法から売上高に表示する方法に変更いたしました。これに伴い、前第2四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報についても組み替えを行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 9 月 1 日 至 2023年 2 月 28 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 9 月 1 日 至 2024年 2 月 29 日)
1 株当たり四半期純利益	67円74銭	8 円03銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	831	98
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益 (百万円)	831	98
普通株式の期中平均株式数 (千株)	12, 271	12, 302

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

(中間配当)

2024年4月12日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額 …………… 160百万円

(ロ) 1株当たりの金額 …………… 13円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日および支払開始日 …………… 2024年5月15日

(注) 2024年2月29日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年4月12日

株式会社ヒマラヤ  
取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人  
名 古 屋 事 務 所

指 定 社 員  
業 務 執 行 社 員 公認会計士 木全 泰之

指 定 社 員  
業 務 執 行 社 員 公認会計士 堤 紀彦

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒマラヤの2023年9月1日から2024年8月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年12月1日から2024年2月29日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年9月1日から2024年2月29日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒマラヤ及び連結子会社の2024年2月29日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において

四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。